

# 「安曇野の自然まるわかり観察会」 実施報告

第1回 6月21日（土）黒沢洞合自然公園（三郷）

第2回 8月23日（土）自然体験交流センターせせらぎ（明科）

第3回 11月1日（土）穂高牧地区 ⇒雨天のため中止

第4回 2月21日（土）豊科交流学習センター「きぼう」

# 第1回「安曇野の自然まるわかり観察会」 実施報告

【日時】6月21日（土） 9：30～12：00

【場所】黒沢洞合自然公園（三郷）

【講師】丸山 隆 様（信州野鳥の会）

【参加人数】15名（大人10名、子ども5名）

【事務局スタッフ】深澤係長、飯田、岡本、百瀬、市川

【内容】

「身近な里山で春の生きもの」をテーマとして、安曇野市三郷地域の黒沢洞合自然公園をフィールドに自然観察会を実施しました。朝からときおり日の差す絶好の観察会日和でした。

公園内の歩ける場所を中心として、道沿いの雑木林の昆虫類や黒沢川の水生生物、休耕農地の昆虫類、ため池の昆虫類や両生類を観察しました。時期的には初夏の生きものが見られる時期であり、カエル類を始め、花に集まる甲虫の仲間、トンボの仲間などを見ることができました。



はじめの会



梢の花の虫を教えてください



ヤナギ林の虫について解説



池の生きものの観察

観察会の最後には、まとめとして講師の丸山さんから、以下の様なお話がありました。

- ・里山ではオオブタクサやアレチウリ、ブタクサハムシなど外来種が多くなってきた。また松枯れの原因となるマツノザイセンチュウも北米原産の外来種である。
- ・身近な自然をいつも気にしていることで、その変化に気づく。参加者のみなさんもぜひ自分の身の回りの自然に注意を払って欲しい。



【教えてもらった生きものなど】

昆虫…ボクトウガ幼虫、ジョウカイボン仲間、アリの巣、コアオハナムグリ、ルリタテハ、コクワガタ、コフキゾウムシ、イタヤカミキリ、クワキジラミ、ゴミムシ仲間、スジグロシロチョウ、コムスジ、シロスジカミキリの付けた傷、シオカラトンボ、ヒョウモンチョウ類、シリアゲムシ、キチョウ、モンキチョウ、シロテンハナムグリ、エグリトラカミキリ、ヒメアシナガコガネ、コメツキムシ類、ヘリグロリンゴカミキリ、トビケラの幼虫、トゲマダラカゲロウ、ガガンボの幼虫、ヒメギス、オオゾウムシが脱出した跡、コオイムシ、ルリボシヤンマ？、コガムシ、ガムシ、ショウジョウトンボ

両生類…イモリ、トノサマガエル

鳥類…コゲラ、ホオジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツバメ、ヤマガラ、キビタキ

哺乳類…クマの糞

魚類…イワナの稚魚、メダカ

その他動物…マルタニシ

植物…オニグルミ、ノリウツギ、クリ、ヤマウルシ、雑木林、クララ、ウツギ、アブラチャン、フトイ、ヒメガマ、サンカクイ、ジュンサイ、カズノコグサ、キショウブ



アリのつくった坑道

(木の中から木くずを出して道をつくります)



クワキジラミ

(綿の様に見えますが昆虫で、桑の害虫です)



ヒメアシナガコガネとコフキゾウムシ



クララ

(薬草でとても苦いです。オオルリシジミの食草)



トノサマガエル



コオイムシ



イモリ



マルタニシ



## 第2回「安曇野の自然まるわかり観察会」 実施報告

【日時】8月23日（土） 9：30～12：00

【場所】自然体験交流センターせせらぎ（明科）

【講師】市川 哲生 様（環境アセスメントセンター）

【参加人数】22名（大人8名、子ども14名）

【事務局スタッフ】深澤係長、飯田、岡本、百瀬、中根

【内容】

「湧水地帯の豊かな水辺」をテーマとして、安曇野市明科地域の自然体験交流センターせせらぎ周辺をフィールドに自然観察会を実施しました。朝から天候も良く、気温も上がりましたが、絶好の観察会日和となりました。

まずはせせらぎ横の水路にて、水生動物（水の中の生きもの）の観察をしました。トビケラの仲間やカゲロウの仲間、トンボのヤゴ、プラナリアなどが採集できました。水生動物の観察の後は犀川河原へ移動し、投網体験をしました。水際の岸辺から実際に投網を打ちます。事前に講師の先生が打った投網では、オイカワやウグイなどを採ることができました。



はじめの会



水路の水生動物採集



せせらぎ内での座学



投網の解説と体験

観察会では、水の中の虫はみんな幼虫であることやトビケラは網を張ってひっかかる有機物を食べていること、水生昆虫が水の浄化に役立っていることなどを教えていただきました。また最後には、まとめとして講師の市川さんから、以下の様なお話しがありました。

- 水中にも外来種があり、今回もたくさんとれたコモチカワツボも外来種である。魚でもブラウントラウトなどがみられる。
- 水生生物は、水の汚れの原因となる有機物を食べる種類も多い。水質が良く美しい水辺をつくることに貢献していることを覚えておいて欲しい。

【教えてもらった生きものなど】

昆 虫…ヒゲナガカワトビケラ、フタスジモンカゲロウ、ヤマトビケラ、マツモムシ、トンボのヤゴ（サナエトンボ）、

魚 類…ヨシノボリ、アブラハヤ、オイカワ、ウグイ、ニジマス

その他動物…ヨコエビ、シマイシビル、サワガニ、コモチカワツボ、プラナリア



ヒゲナガカワトビケラ

(水中に網を張り、流れ下る有機物を引っかけて食べます)



プラナリア

(水中の掃除屋さん)



コモチカワツボ (外来種)



ウグイ



## 第4回「安曇野の自然まるわかり観察会」座学講座 実施報告

【日時】2月21日(土) 13:30~16:00

【場所】豊科交流学習センター「きぼう」2階ホール

【講師】林 秀剛さん(信州ツキノワグマ研究会)

松尾 衛さん(森倶楽部21)

小河 深美さん(安曇野緑の会)

【参加人数】40名(大人37名、子ども3名)

【事務局スタッフ】深澤係長、飯田、岡本、百瀬、松平、山田、中根

【内容】

「安曇野の自然を語る ～生きもの最前線～」をテーマに自然環境についての座学講座を実施しました。講師は、市民環境ネットワークの自然環境保全等に関わる団体の皆様にお願ひしました。

講演はリレートーク形式とし、市内の今の自然について、課題や問題点、トピックなどをテーマごとにご講演いただきました。テーマは、「ツキノワグマ」「松枯れ」「外来生物」の3つです。



### ■林 秀剛さん(信州ツキノワグマ研究会)

「2014年 クマ事情」と題して、昨年市内で多く出没したツキノワグマについて、生態と特徴を紹介いただきました。

2013年は、餌のドングリが豊作であったことから、翌年である2014年の出没は予想されたことだったようです。被害防止のためには、クマの行動域が拡大していること、クマは身近なところで人を見ていることを認識し、誘引物の除去や侵入防止(電柵など)の対策をきちんととることが必要とのことでした。



### ■松尾 衛さん(森倶楽部21)

市内で近年問題となっている松枯れについて、その発生メカニズムや被害の状況について紹介いただきました。

松枯れを引き起こすマツノザイセンチュウは、明治時代に外国から入ってきましたが、その存在は昭和46年まで分らなかったそうです。市内の松枯

れ被害はかなりのスピードで進んでおり、すべての松を守ることは困難なため、守るべき松林を決めて対策を実施すべきとのことでした。また戦後の拡大造林のため、今の人工林は林齢のバランスが悪く、今後計画的に植えて育てていくことが必要なことも教えていただきました。



#### ■小河深美さん（安曇野緑の会）

特定外来生物のうち、市内で多く見られる4種について、繁茂の状況や生態について紹介いただきました。

アレチウリは、木に絡みつinaながら繁茂し、実は落ちると休眠状態になるため、3~5年は連続して駆除が必要だそうです。オオカワチシャは、休耕わさび畑に入り込んで増えているとのこと。在来種で希少植物のカワチシャに影響を与えているそうです。

オオキンケイギクは、犀川河川敷で手がつけられないほど増えており、河原固有種のカワラサイコなどに影響が出ているそうです。市内の特定外来植物は、皆で意識して駆除していくのが良いのではないかとのご提案でした。



講演会の後は、工作体験コーナーです。信州やがいたいけん楽校ぶらすの降幡さんに講師としてお越しいただき、「森のかけらのお守り作り」に挑戦しました。間伐材のヒノキとスギを材料に、紙やすりでとにかく磨き、ぴかぴかにしたあと、ひもを通してペンダントを作りました。参加者のみなさん、真剣なまなざしで磨いていましたよ。

